

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年1月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0193600111		
法人名	特定非営利活動法人ほのぼの		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	〒059-0915 北海道白老郡白老町川沿1丁目553番地の9 (電話) 0144-85-3675		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年12月16日	評価確定日	平成22年1月19日

【情報提供票より】(平成 21年11月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)20年 3月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 2人, 常勤換算	14.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000~23,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年月11月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.6 歳	最低 77 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤田内科クリニック
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、認知症になっても住み慣れた地域で安心した生活を継続できる場所をつくりたいという開設者の思いにより平成20年3月に、町の公営住宅に隣接して開設した。当事業所はデイサービスセンターを併設しているということもあり、日ごろより地域住民との交流が多く行われている。日常生活に生活リハビリを取り入れ、利用者の身体機能の向上に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が定期的に自己評価を実施し、事業所のサービスの質の向上へ評価を活かすような取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族、地域住民、町職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。会議で出された意見は職員に周知し、サービスの質の向上に活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族宛に広報誌を発行し送付している。金銭管理の状況については、家族の来訪時に報告を行っている。家族会や運営推進会議、電話、来訪時などで意見や要望が出された場合、速やかに申し送り等にて職員へ周知を図り事業所の運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として町内会へも加入し、家族会にも地域住民と一緒に参加している。また、小中学生やボランティアも積極的に受け入れており、地域から孤立することがないよう地元住民との交流を行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしい楽しい暮らし、共に支えあう生活を基本とした事業所独自の理念をつくり、玄関ホールやスタッフルームに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や研修会において理念の理解と共有を図り、日常のケアの方向性が理念に基づいているか、スタッフ全員が常に確認をしながらケアを提供している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として町内会へ加入し、家族会には地域住民も一緒に参加している。また、小中学生やボランティアを積極的に受け入れており、地域から孤立することがないように地元住民と交流している。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が定期的に自己評価を実施し、評価を活用したグループホームの質の向上への取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、地域住民、町職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。会議で出た意見は、職員に周知し、サービスの向上に活用している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町とは必要に応じ連絡を取り合い、スムーズな連携体制の確保に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族宛てに広報誌を発行し送付している。金銭管理の状況については、家族の来訪時には報告しているが、定期的な報告は行っていない。	○	少なくとも毎月、定期的に家族または本人へ、金銭管理の状況について報告することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、電話、普段の来訪時などで意見等が出された場合、速やかに申し送り等で職員へ周知を図り、家族等からの意見や要望を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限となるよう努力している。異動する場合は、十分な検討や利用者への説明を行い、利用者へのダメージを少なくするよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会には、経験に応じて、計画的に職員を積極的に参加させている。また、参加した職員による報告会を行っている。新人研修などの事業所内研修も計画的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの協議会に加入し、そこでの研修会には積極的に職員を参加させ、同業者と交流する機会を設けている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学を行い、利用者や家族が事業所の雰囲気を理解してからサービスが利用できるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が一緒に食事の準備や調理、後片付け、掃除をするなど、喜怒哀楽を共にし、支えあいながら過ごすよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの生活習慣や好みを把握し、職員間で共有化し、現在の生活に活かす支援方法を常に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や希望を元にアセスメントを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的または変化に応じ、本人や家族、スタッフによる十分な検討のもと、随時介護計画を見直し、現状に即して計画を変更している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望や必要に応じて通院や買い物、ドライブ等の外出支援を随時行っている。また、近くの研修所に学校児童が宿泊する際には、入浴設備を開放している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受ける体制が整っており、利用者は安心した医療環境の中で生活している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけ早い段階から家族と話し合い、マニュアルや方針を整備しており、医療機関との連携体制も確保している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日ごろから、個人の尊厳やプライバシーを尊重した言葉かけや対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などについて、一人ひとりの利用者のペースや時間帯など、希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、食事の準備や後片付けを利用者とともにに行っている。また、職員と利用者は、同じテーブルを囲み、同じものを一緒に食べ、楽しい雰囲気の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望する日、時間帯に入浴している。また、介護が必要な利用者については、同性介護など介護者にも配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の生活歴や職歴を把握することに努めており、その中で、食事の準備や後片付け、調理、洗濯物たたみ、掃除などの利用者ができることを考えて役割づくりに結び付けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて散歩や買い物、ドライブ、山菜取りなど、可能な限り外出する機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵はかけておらず、利用者が外出する際は、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり同行するなど、安全面に配慮し自由な暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練を年2回以上定期的に行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量、排泄の状況を毎日記録し、職員同士で情報を共有しながら、食事を提供している。また、関連グループの栄養士や調理師による栄養や調理、衛生に関する指導も定期的に受けている。		
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気の内装や家具を配置し、利用者と一緒に考え季節感のあるカレンダーや絵を作成し飾っている。また、各居室内の温度や換気についても、職員が一括管理できるシステムが整っており、常に居心地の良い空調管理を行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や仏壇等を自由に持ち込んで、利用者それぞれの個性に合わせた、その人らしい居住空間をつかって居心地良く暮らせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。